

統一協会

文鮮明来日 金丸副総裁が便宜

92年 法務省、入国不可を二転

【フウル=時事】世界平和統一家庭連合（旧統一教）創始者の文鮮明氏（故人）が1992年1月に来日した際、当初、法務省は入国を許可しない立場でしたが、当時の金丸信（国民党副総裁・同）が身元を保証すると便宜を図り、認めさせていたことが分かりました。韓国外務省が6月に公開した外交文書で明らかになりました。教団と国民党幹部との密接な関係が浮き彫りになった格好です。

文鮮明は米国で実刑判決を受けており、本来は日本に入国できないはずでした。しかし、金丸氏の働き掛けに加え外務省もそれに特別意見しなかつたため法務省が判断を変え、最終的に入国が認められたといいます。文鮮明は、在日韓国大使館が日本外務省に文氏の入国情緒について記したものを、来日中、文鮮明が宿泊するホテルで2時間にわたって金丸氏と面談したことなどを記されています。

非公式で尋ねた内容を記したもの。来日中、文鮮明が宿泊するホテルで2時間にわたって金丸氏と面談したことなどを記されています。

韓国文書公開

統一協会の歴史をまとめた書籍は、特別許可で入国した文鮮明を紹介しています（『日本統一運動史』から）

解説 韓国外務省が6日に公開した外交文書によって、国民党と統一協会（世界平和統一家庭連合の発展者）の発展で、政府方針がゆがめられ、被害が拡大した疑いが浮上しました。

政府方針ゆがめ 被害拡大

弘茂首相と会談。翌東京アシアの平和を考える議論会（の会）の開催で、政府方針が変更されました。金丸氏が「働きかけ」は認めています。それを金丸信料によると、文鮮明は13年半ぶりの来日で、信者から大歓迎を受けたことが記されています。

反社会的団体のトップに国民党の最高幹部が政府方針をひっくり返して入国の便宜を図っただけでなく、「お國付き」まで与えていたのです。その結果、文鮮明の指示を直接聞

いた信者のマイケル・コントロールが強化され、被害がより深刻化したとれます。圧力をかけた国民党も、それを認めた政府も加害者側であることを自覚し、反省すべきです。

国会では文鮮明の入院後から日本共産党の議員らが政府を追及していました。金丸氏の「働きかけ」は認めています。そのため、法務省が方針を変更したことは、それを外務省が韓国側と伝えていたことは嘘じてきました。陽へじてきた事実を韓国側が明らかにした形です。日本政府には事実関係を徹底的に究明することが求められます。